





●着工前全景



●全景 9月5日撮影

一般国道230号 札幌市 定山溪トンネル漏水防止板設置工事



●漏水防止板・ケーブルラック撤去状況



●AIによる交通量解析



●定山溪トンネル点群データ(坑内)



●定山溪トンネル点群データ

- 施工場所：札幌市南区定山溪
- 発注者：北海道開発局 札幌開発建設部
- 施工業者：萩原建設工業株式会社
- 施工期間：令和7年3月26日～令和7年11月28日
- 進捗率：65.0%(8月末現在)

土木

本工事は、一般国道230号定山溪トンネルにおいて、老朽化した漏水防止板やケーブルラックを撤去し、新たに設置する工事です。施工にあたっては、片側交互通行規制や高圧設備の停電・復電作業を行いながら進めています。

定山溪トンネルを含む一般国道230号は、札幌と留寿都村やニセコ町などリゾート地を結ぶ重要な道路で、交通量も多い路線です。そのため、現場に設置したカメラ映像をAIで解析し、交通量を「見える化」することで、交通規制の上下線切替えタイミングを最適化し、円滑な交通確保に努めています。

また、施工前や既設の漏水防止板撤去時には点群データを取得し、既設物を3次元的にいつでも確認できるようにしました。これにより現況調査に役立てるとともに、出来形管理においても従来のグラフ表示に加え、3次元データ上に測定値を示すことで、より視覚的で分かりやすい確認が可能となります。

これから紅葉シーズンを迎え、交通量のさらなる増加が見込まれます。引き続き安全第一を徹底し、無事故での完工を目指してまいります。

現場代理人：早川 剛史／監理技術者：大籠 雅敏／担当技術者：上野 みなみ



●外観

(仮称)特別養護老人ホームさとづか三清荘 新築工事



●共同生活室(かえで)



●地域交流スペース



●特別浴室



●厨房

- 施工場所：札幌市清田区里塚2条5丁目5番27号
- 発注者：社会福祉法人 経山会
- 設計監理：大旗連合建築設計株式会社
- 施工業者：萩原建設工業株式会社
- 施工期間：令和6年2月22日～令和7年7月31日
- 進捗率：100%



本工事は、岡山県総社市に本部を置く社会福祉法人 経山会様の札幌で2件目となる特別養護老人ホームの建設工事です。

近隣は住宅街であるため、騒音や粉じん、第三者災害への十分な配慮を行い、無事に竣工を迎えることができました。

これもひとえに経山会様、大旗連合様、そして関係協力会社様のご協力の賜物と存じます。

今回の工事は、私たち若い技術者にとっても大変貴重な経験となりました。この経験を糧に、今後さらなる成長につなげてまいります。

改めて、皆様に心より感謝申し上げます。

現場代理人・監理技術者：蠣崎 憲政／担当技術者：椎名 市右衛門平太郎、高橋 佑希

建築

土木部3名の研究と論文が賞を受賞！ 現場での挑戦や工夫が高く評価されました！

このたび当社土木部の社員3名が、それぞれの研究や論文で「学会賞」や「優秀論文賞」などを受賞しました！

日々の現場での挑戦や工夫をまとめたり、研究することで、専門機関から高く評価いただいたことは、当社にとっても大きな誇りです。

【地盤工学会北海道支部賞 / 地盤工学会北海道支部】



「廃石膏ボードの地盤材料へのリサイクル方法に関する検討」をテーマにした論文です。従来は焼成処理が必要とされていた廃石膏ボードを、分別・破砕だけで再利用できる実用的な方法を提案。さらに、セメントと混合することで施工性や安全性を確保し、地盤改良材として有効であることを示しました。今後増加が見込まれる廃石膏ボードの再利用促進や、処分場ひっ迫問題への対応につながる可能性が高く評価されています。

▶受賞者コメント

「挑戦と意識せず日々取り組んできた積み重ねが研究につながり、受賞という形で認められ、多くの方に見てもらえるようになったことを素直に嬉しく思います。」(土木部 次長 技術管理担当 江本)

【優秀論文賞 / 令和7年度 砂防関係工事安全施工管理技術研究発表会】

「戸鳶別川砂防堰堤工事用道路外工事」で、道内初となる長距離ネットワークを構築。ICT建機・遠隔臨場・現場通信カメラ等を活用し、現場の安全性と効率を大きく向上させました。BIM/CIMの活用でも、経験年数や国籍を問わず、全作業員が共通認識を持てる環境を整えた点が評価され、全国8本の優秀論文のひとつに選ばれました。

▶受賞者コメント

「現場での取り組みを“かたち”にして発表でき、評価をいただけたことは貴重な経験でした。発表の場では他社の事例から学ぶことも多く、自社技術への自信にもつながりました。今後も、こうした取り組みが広がっていけば嬉しいです。」(土木部 工務課 担当課長 林)



【技術論文 インフラDX賞 / 第29回 土木施工管理 技術論文 技術報告】



「RPAとAI技術を活用した資材管理のオートメーション化への取組」をテーマに、帯広市内の河川堤防工事で、約8,300個の資材をRPAとAIを活用して、効率的に管理した事例を紹介。自動集計システムや管理図の自動着色機能によりペーパーレス化と約28日分の作業時間削減を実現しました。現場技術者が自ら課題を解決に導いた点も評価され、国交省が推進する「i-Construction 2.0」に沿った先進的事例であり、建設現場における生産性向上とデジタル化の可能性を示す一例となりました。

▶受賞者コメント

「建設業は“なくてはならない仕事”ですが、見えにくい・伝わりにくい部分も多い仕事です。それをわかりやすく伝えることで若い人に“カッコいい”と感じてもらえたら嬉しいです。これからも建設業の魅力をいろんな形で発信していきたいです。」(土木部 工務課 係長 早川)

技革推進部、設立から4か月。スピーディーに広がる挑戦と活動！

2025年6月、土木部・建築部、現場・本社といった枠を超えて、知識や技術を全社で横断的に共有・展開することを目的に「技革推進部（ぎかくすいしんぶ）」を新設しました。

設立から4か月、すでにさまざまな活動を展開しています。

現場では「書類作成の支援」や「新ツールの導入支援」を実施。技革推進部が操作を検証したうえで現場社員にレクチャーし、スムーズな活用につなげています。

また、工事開始に向けて現場を整える「現場乗り込み時の準備」や「安全掲示板の設置サポート」なども行い、現場が本来の業務に集中できる環境づくりに取り組んでいます。

さらに、現場の地域貢献活動にも関わっています。先日、羅臼町で開催されたイベントでは、物品手配や人員配置、コンテンツ企画から当日の運営までを一貫して行いました。

ひとつひとつの取り組みは小さな積み重ねですが、現場の働きやすさや安全性の向上につながる大切な基盤です。技革推進部はこれからも現場に寄り添い、新しい挑戦を続けていきます。今後の活動にもぜひご期待ください！



今月の表紙

撮影：営業部 仁藤 正憲

今月の表紙は、10月中旬、三国峠から望む十勝三股の樹海とウペペサンケ山・ニベソツ山の風景です。深まる秋の陽射しに照らされ、森は赤や黄に色づき、山並みを柔かく包みます。今年は暖かいため、紅葉の見頃は例年より10日ほど遅れるかもしれません。十勝には、心を染める美しい紅葉スポットが数多く点在しています。豊かな自然の彩りと静かな空気の中で、秋の十勝を存分に味わっていただきたいと思います。



2025年10月号 / HAGIWARA TIMES vol.101

萩原建設工業株式会社

バックナンバーは当社HPよりご覧ください。

〒080-0807
北海道帯広市東7条南8丁目2

<https://www.hagiwara-inc.co.jp/>

TEL.0155-24-3030



DX認定